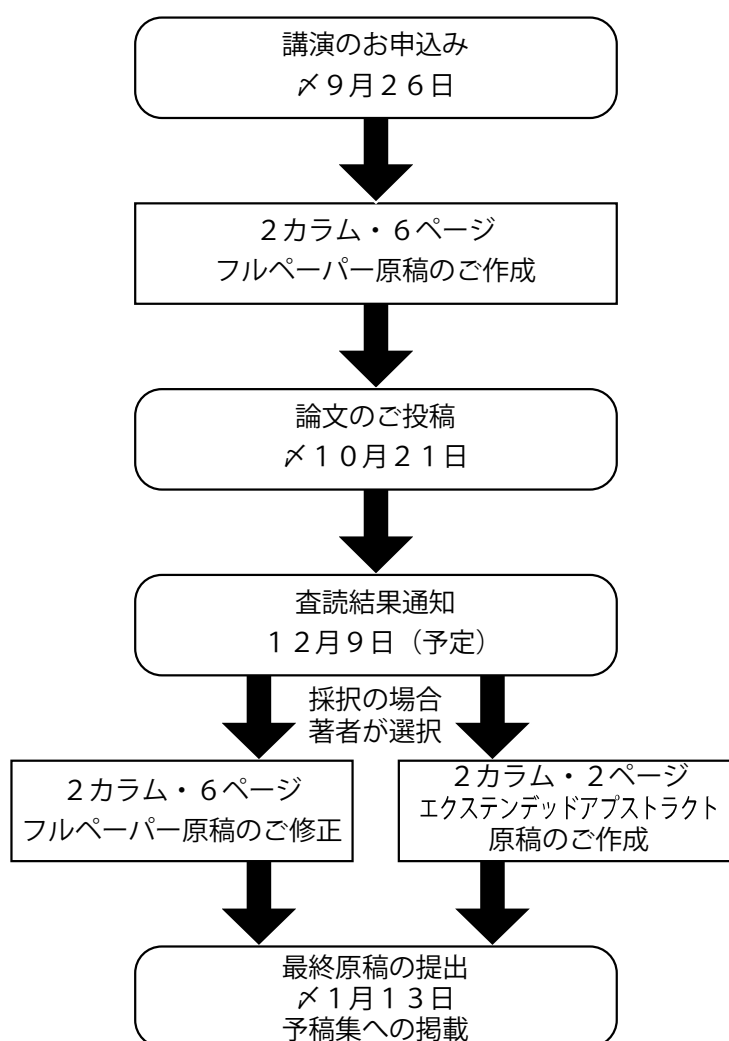


ロボティクスシンポジア 掲載予稿選択制導入について

第22回ロボティクスシンポジア（2017年3月開催）では、当日配布される予稿集へ掲載される原稿について、(A) 6ページのフルペーパー形態、(B) 2ページのエクステンデッドアブストラクト形態、の選択制が試行導入されます。

- 査読については、従来通り6ページのフルペーパー形態にて行います。すなわち、初期投稿は全ての投稿者の方に従来通りフルペーパー原稿をご作成いただきます。
- 論文が採択となった場合、著者に形態を選択の上、最終原稿をご投稿いただきます。
- 増ページ（最大8ページ）はフルペーパー形態を選択した場合にのみ、有料で可能です。



図：投稿および原稿形態選択フロー

導入の経緯

ロボティクスシンポジウムは、フルペーパー原稿＋30分の討論という充実した発表機会を通じて、研究内容を深めるとともに学術論文としての完成度を高め、学術雑誌への投稿を促すという使命を帯びて始まりました。しかしながら、最近の剽窃判断の厳格化やそれに対する厳罰化の流れにより、フルペーパー原稿が会議録に掲載されることのデメリットが聞かれるようになりました。

ロボティクスシンポジウムの理念に照らせば、「ロボティクスシンポジウムの予稿集に原稿が掲載されたがゆえに学術雑誌への論文投稿が妨げられた」というのは本末転倒といえます。

このことから、学術雑誌への投稿原稿との十分な差別化が可能であるよう、最終原稿としてエクステンデッドアブストラクト形態を著者の意思により選択可能とする試行を導入するものです。

この試行は2017年度に限り行われ、投稿者・参加者の皆様のご意見を伺ったうえで改めて継続・改善もしくは廃止を検討いたします。